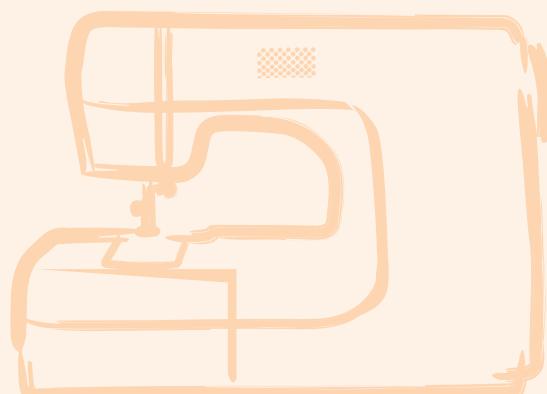


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになられる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになられる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------	--	--

本文中の図記号の意味	 △ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	 ○ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	 ● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告 感電・火災の原因となります。	
 禁止 ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5 ℃～35 ℃です。	
 禁止 スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。	
 禁止 電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • 傷つける、加工する、はさみ込む、たばねる、引っ張る、無理に曲げたりねじったりする、重い物をのせる、高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。	
 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	
 必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。	
 必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> • ミシンのそばを離れるとき • ミシンを使用したあと • ミシン使用中に停電したとき 	

 注意 感電・火災・けがの原因となります。	
 禁止 ミシンの通風口はふさがないでください。	
 禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、使用するときは、周辺に糸くずやはこりがないことを確認してください。	
 禁止 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。	
 注意 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。	
 必ず実行 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。	
 必ず実行 プラグ受けに、糸くずやはこりがたまらないようにしてください。	
 必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。 押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。	
 必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。	
 必ず実行 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none"> • 押さえ、アタッチメントを交換するとき • 上糸、下糸をセットするとき 	
 必ず電源プラグを抜く 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> • ミシンのお手入れを行うとき • 針、針板を交換するとき 	
 必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> • 正常に作動しないとき • 水にぬれたとき • 落下などにより破損したとき • 異常な臭い・音がするとき • 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき 	

★ご注意

本機種ではジグザグぬい（模様 07）の「ぬい目の幅」は、初期値 5.0 としております。

これは付属のたち目かがり専用「C 押さえ」で、たち目かがりをする際に、ジグザグぬいを選択されても、針が「C 押さえ」の針金にあたるのを防ぐ目的があります。

ジグザグぬい（模様 07）で、「A 押さえ」を使用される場合は、試しぬいをして、ぬい縮みが出ないよう、「ぬい目の幅」や「ぬい目のあらさ」を調節して、ご使用ください。

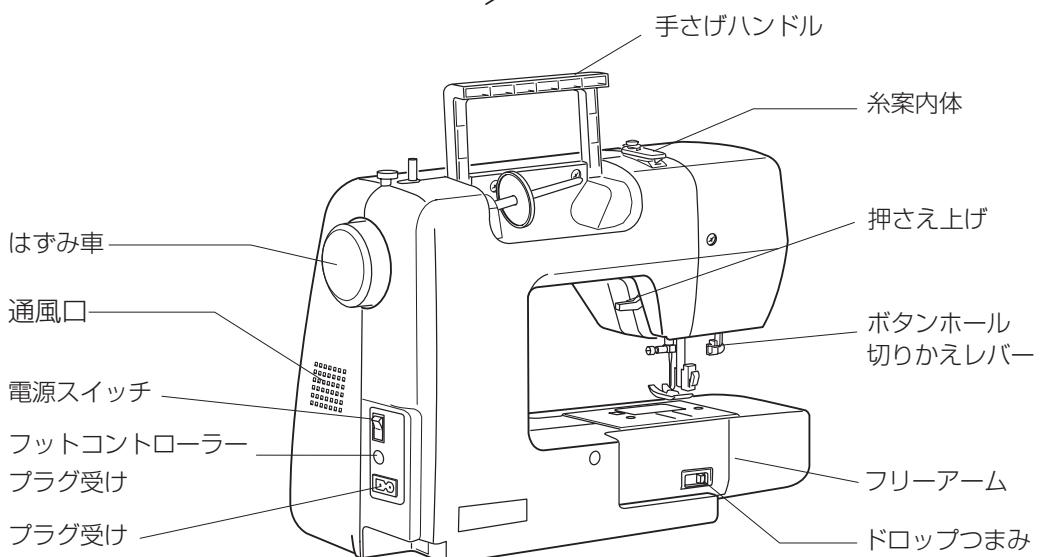
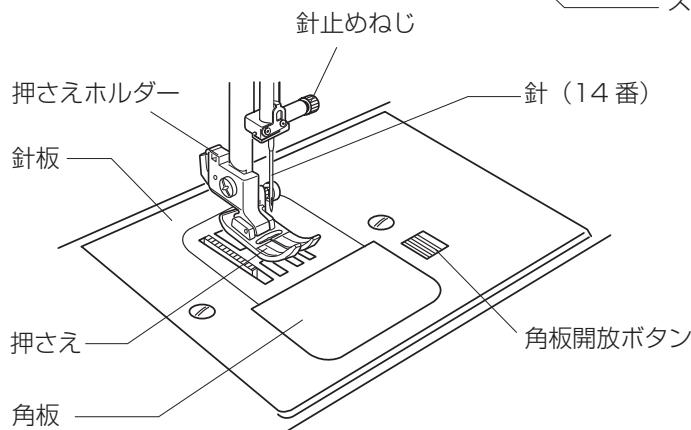
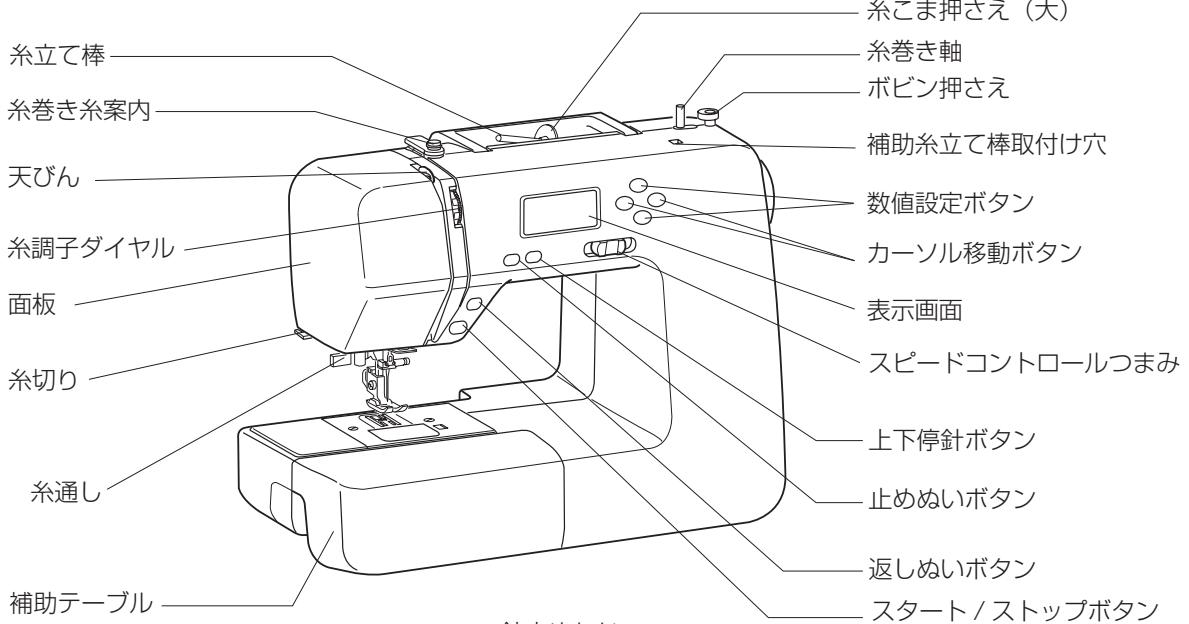
- ・薄地の場合で、ぬい目の幅（3.0）、ぬい目のあらさ（2.0）が目安です。

※ 詳しくは、取扱説明書の 24、25 ページをごらんください。

目 次

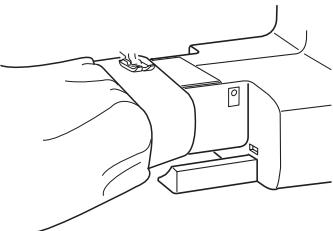
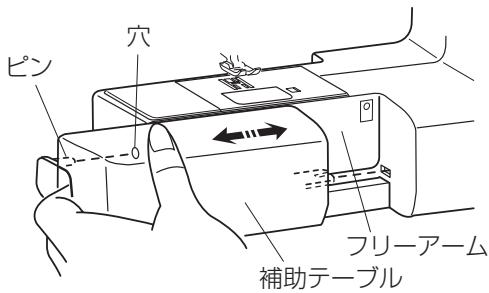
◎お取り扱いについてのお願い	2	●芯入りボタンホール	31
◎各部のなまえ	3	●ボタン付け	32
◎補助テーブル	4	●ファスナー付け	33～34
◎標準付属品と収納場所	4	●まつりぬい	35
◎基本操作	5～19	◎応用ぬい	36～38
●電源のつなぎ方	5	●ピンタック	36
★スタート/ストップボタン使用のとき	5	●パッチワーク	36
★フットコントローラー使用のとき	5	●シェルタック	37
●スタート/ストップボタン	6	●ファゴティング	37
●速さの調節のし方	6	●アップリケ	38
★スピードコントロールつまみ	6	●スカラップ	38
★フットコントローラー	6	◎ミシンのお手入れ	39
●操作ボタンの主なはたらき	7～8	●かまと送り歯の掃除	39
●送り歯のさげ方	9	●内がまと針板の組み付け	39
●押さえの取りかえ方	9	◎こんな表示が出た場合	40
●押さえホルダーの外し方、付け方	10	●表示画面の対処方法	40
●押さえ上げ	10	●ブザー音の種類	40
●糸調子の合わせ方	11	◎ミシンの調子が悪いときの直し方	41～44
★自動糸調子	11	◎お取り扱いについてのお願い	
★マニュアル糸調子	11	◇ ご使用の前に	
●針の取りかえ方	12	① ぬう布を汚さないようにするために、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。 試しみないをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。	
●布に適した糸や針を選ぶ目安	12	② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使 用しないでください。	
●下糸の準備をしましょう	13～15	◇ いつまでもご愛用いただくために	
★ボビンを取り出します	13	① 長時間日光に当てないでください。	
★糸こまをセットします	13	② 湿気やほこりの多いところは避けてください。	
★ボビンに糸を巻きます	14	③ 落としたり、ぶつけたりするなど衝撃を与 えないでください。 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハ ンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシン をささえてください。	
★ボビンを内がまにセットします	15	◇ 修理・調整についてのご案内	
●上糸の準備をしましょう	16～18	万一不調になったり故障を生じたりしたとき は、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(41 ～44ページ)によって点検・調整を行ってく ださい。	
★上糸のかけ方	16		
★糸通しの使い方	17		
★下糸を引きあげます	18		
●表示画面の説明	19		
●模様の選び方	19		
◎実用ぬい	20～35		
●直線ぬい	20～21		
★ぬい始め	20		
★厚手の布端のぬい始め	20		
★ぬい方向の変更	20		
★ぬい終わり	21		
●針板ガイドラインの利用	21		
●ぬい目のあらさをかえるとき	22		
●針位置をかえるとき	22		
●直線状のぬい目	23～24		
●ジグザグぬい	24～25		
★ぬい目の幅・あらさをかえるとき	24～25		
●たち目かがり	25～26		
●トリコットぬい	26		
●ボタンホール	27～30		
★ボタンホールの種類	27		
★ボタンホール10(スクエア)の ぬい	27～29		
★ボタンホール重ねぬい	29		
★ぬい目の幅・あらさをかえるとき	30		
★ボタンホール11、12のぬい	30		

◎各部のなまえ



- ※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◎補助テーブル



【補助テーブルの外し方】

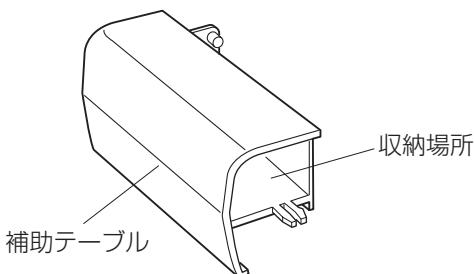
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※ 補助テーブルを取り付けるときは、フリー アームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物 のくち端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所



補助テーブルの中に、押さえなどの小物が収納できます。



A : 基本押さえ
※ミシンの押さえ
ホルダーに付
いています。

C : たち目かぎり
押さえ



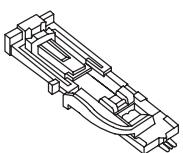
E : ファスナー
押さえ



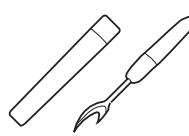
F : サテン
押さえ



G : まつりぬい
押さえ



R : ボタンホール押さえ



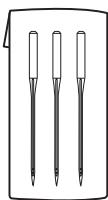
シームリッパー



補助糸立て棒



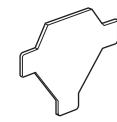
ボビン
※もう1つは、ミシンの内がまに入っています。



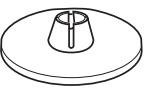
針 (HA × 1)
(14番針: 3本)



糸こま受け台

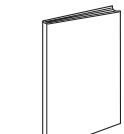


ドライバー

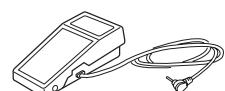


糸こま押さえ (大) 糸こま押さえ (小)

※糸こま押さえ (大) はミシン
糸立て棒に付いています。



取扱説明書



フットコントローラー
※モデルによりオプションになります。



説明DVD



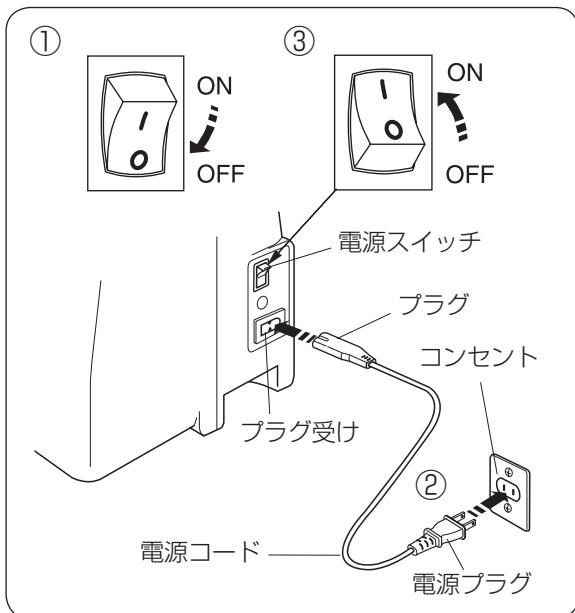
電源コード

◎基本操作

● 電源のつなぎ方

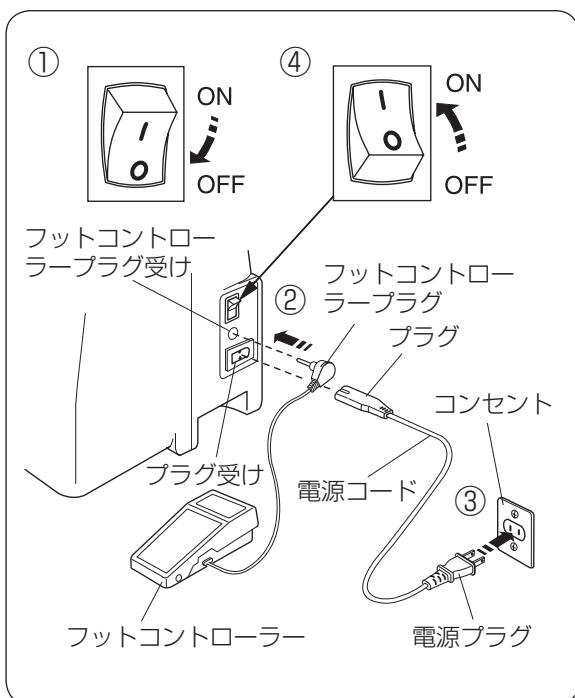
⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。



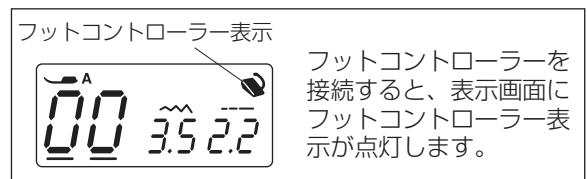
★ スタート / ストップボタン使用のとき

- 電源スイッチを「OFF」(切)にします。
 - プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - 電源スイッチを「ON」(入)にします。
- ※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。
初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。
- ※ 必ず付属の電源コードを使用してください。

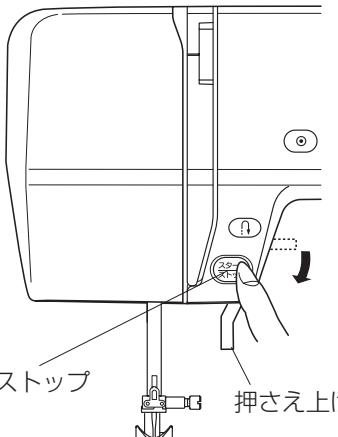


★ フットコントローラー使用のとき

- ※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。
- 電源スイッチを「OFF」(切)にします。
 - フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
 - プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - 電源スイッチを「ON」(入)にします。
- ※ フットコントローラーを接続したときは、スタート / ストップボタンは使えません。



● スタート / ストップボタン



ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

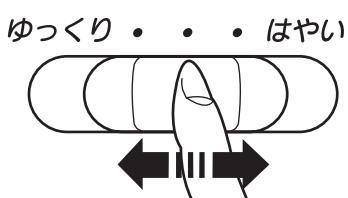
※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ（手をはなすまで）は、低速で動きます。

※ スタート / ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

● 速さの調節のし方

ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。

★ スピードコントロールつまみ

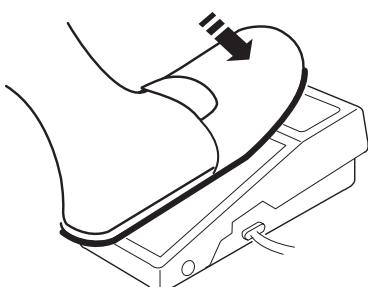


ぬう速さは、自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節できます。

※ 最高速度は、模様のぬい目のあらさ、および模様の種類によって変化します。

★ フットコントローラー



フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。

フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、スピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。

※ 通常、スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。

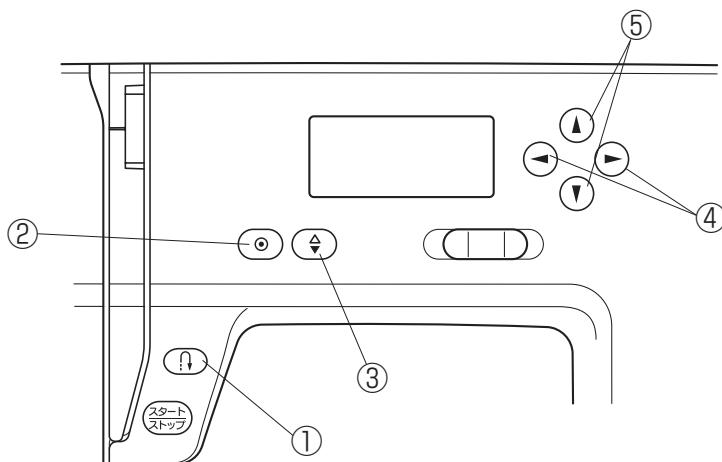
※ フットコントローラーを接続したときは、スタート / ストップボタンは使えません。

※ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。

⚠ 注意

- ・ フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因となります。
- ・ フットコントローラーを使用する場合、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが・故障の原因となります。

● 操作ボタンの主なはたらき



①返しひいボタン



【運転中の返しひい】

模様 00 01 07 08 は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しひいをします。

その他の模様のときには、すぐに数針止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しひい】

(フットコントローラーを接続しているときは、使用できません。)

模様 00 01 07 08 は、ミシンが動いていない状態で返しひいボタンを押すと、押しているあいだは返しひいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン



模様 00 01 07 08 は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様のときには、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を1つぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン



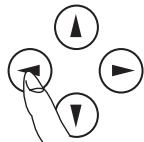
ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

※ 下位置に切りかえておいても、模様 (10 11 12) は、ぬい終わったときには、上位置で止まります。



④カーソル移動ボタン

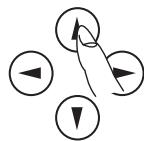


モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ）を設定するときは、 ボタンを押します。

※ ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。

※ ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

⑤数値設定ボタン

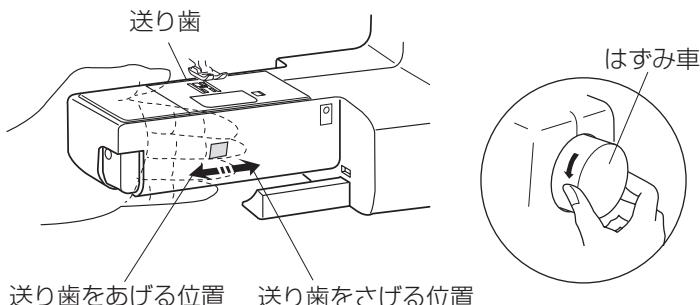
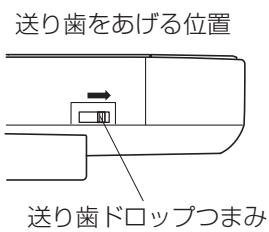
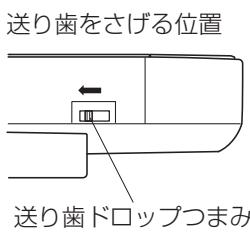


モードの数値を変更するときには、 ボタンを押します。

※ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。

※ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

● 送り歯のさげ方



ボタン付けなどのときは、送り歯ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

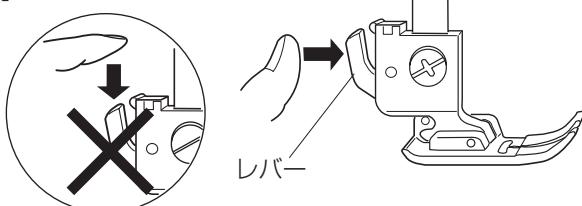
※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

● 押さえの取りかえ方

⚠ 注意

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様に合ったものを使用してください。押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因となります。

[1]



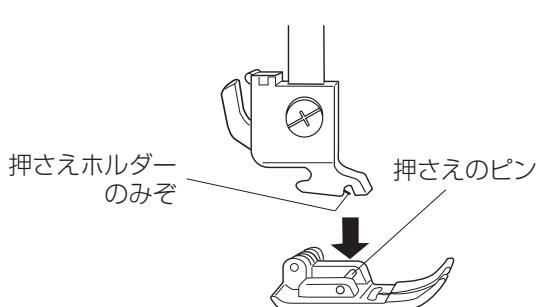
[1] 外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※ 押さえ上げのあげ方は、「●押さえ上げ」(10 ページ) をごらんください。

※ レバーを上から押すと、故障の原因になります。

[2]



[2] 付け方

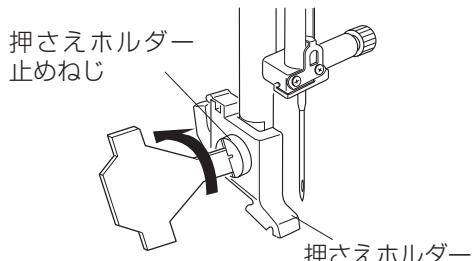
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

● 押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

【1】

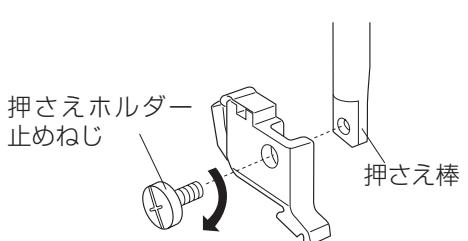


ミシンのお手入れなどのときに外します。

【1】外し方

押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、
押さえホルダーを外します。

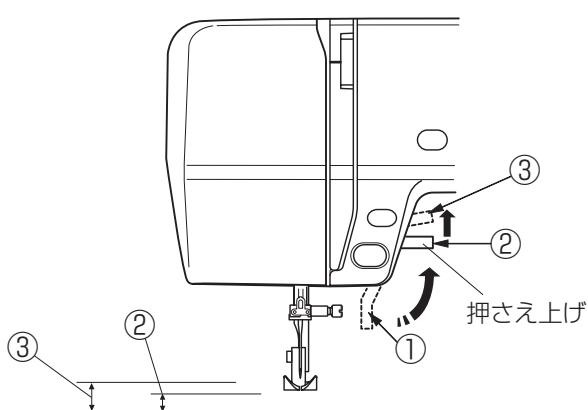
【2】



【2】付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押
さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

● 押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高く
あげると、押さえはさらにあがります。
厚い布を入れるときにお使いください。

①さげた位置：

ぬいのときには、さげておきます。

②普通にあげた位置：

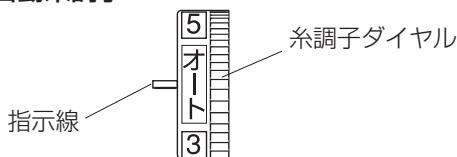
布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえ
の交換のときにはあげます。

③さらにあげた位置（固定はできません。）：

厚い布が入れやすくなります。

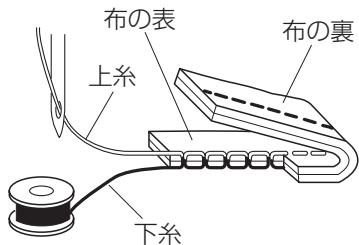
● 糸調子の合わせ方

★ 自動糸調子

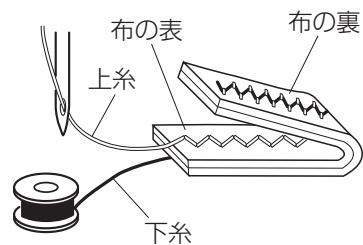


〔バランスのとれた糸調子〕

《直線ぬいの例》

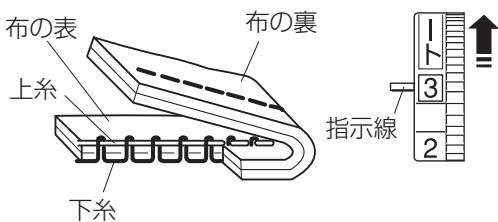


《ジグザグぬいの例》

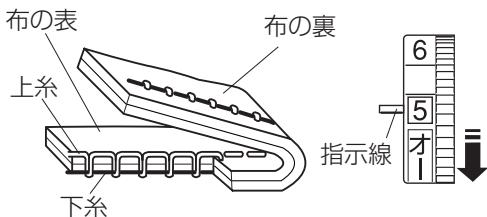


★ マニュアル糸調子

《上糸が強すぎる場合の調節》



《上糸が弱すぎる場合の調節》



糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くねえるように、自動セットされます。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

- ・数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- ・数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子のバランスがとれない場合、下記「★マニュアル糸調子」の方法で調節します。

※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

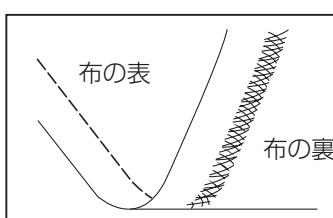
上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

布地の裏がタオル地のようになる場合

図のように布地の表側は普通にねえて、裏側がタオル地のようになるのは、上糸の糸調子が弱いか、上糸のかけ方が間違っています。上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。

「●上糸の準備をしましょう / ★上糸のかけ方」(16ページ) 参照

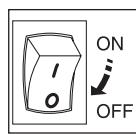
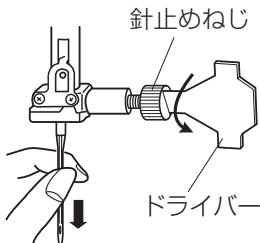


● 針の取りかえ方

⚠ 注意

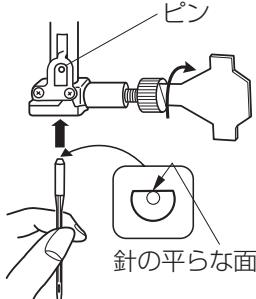
針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因となります。

【1】



電源スイッチ

【2】



※ はすみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

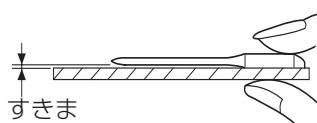
針止めねじを手前に1~2回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※ 正しく針が付けられないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】



【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

● 布に適した糸や針を選ぶ目安

※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

布の種類	糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番 9番～11番 または ジャノメブルー針 (オプション)
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～90 番 11番～14番 ジャノメブルー針 (オプション)
		綿糸 50 番 14番
厚い布	デニム ツィード コート地	綿糸 40 番～50 番 ポリエステル 40 番～50 番 14番～16番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番 16番

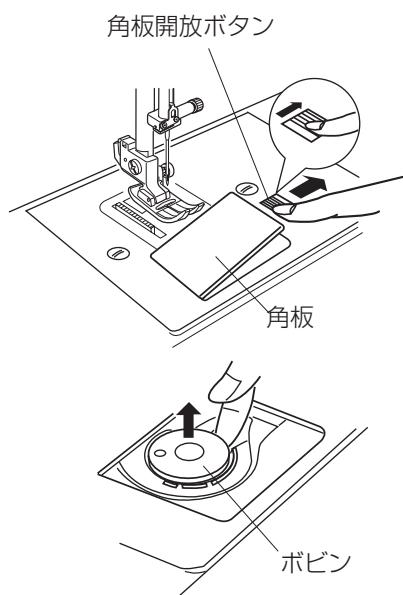
※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地には、ジャノメブルー針（オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。

● 下糸の準備をしましょう

★ ボビンを取り出します

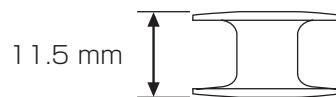


※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

お願い :

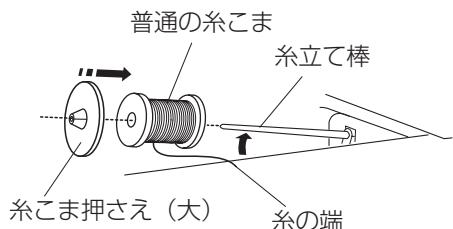
- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



- 金属ボビンは使用しないでください。
釜にマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

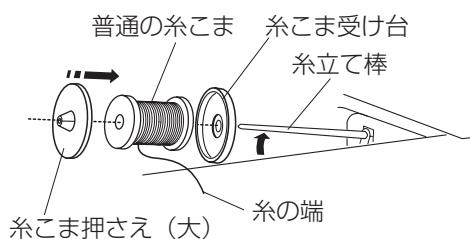
★ 糸こまをセットします

【1】



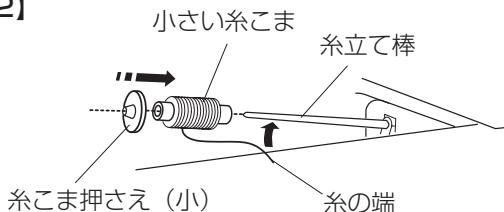
【1】普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。



※ 糸が外れる場合は、糸こまの下に糸こま受け台をセットしてください。

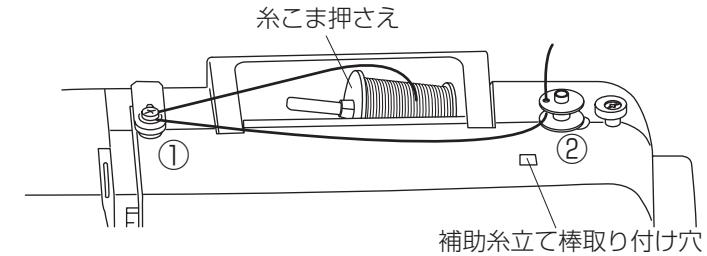
【2】



【2】小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときは、糸こま押さえ（小）を使ってください。

★ ボビンに糸を巻きます

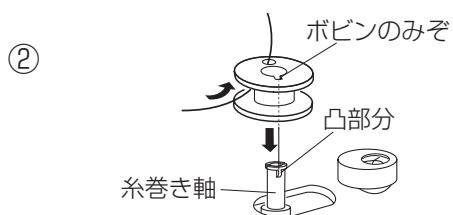


※ 糸巻き時は、スピードコントローラルつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。

※ 糸を確実に皿の下に入れてください。
糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。

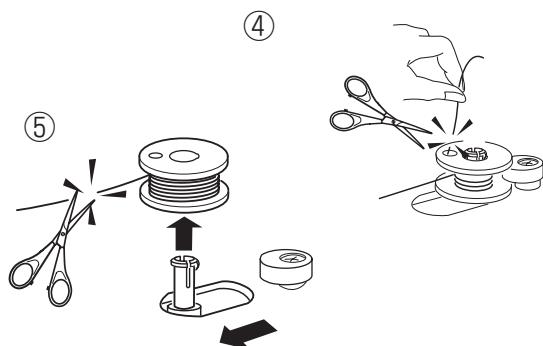


② ボビンの穴に内側から糸を通します。
糸巻き軸の凸部分とボビンのみぞが合うよう
に、糸巻き軸にボビンを差し込みます。



③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。
ボビンが、糸巻き位置にセットされると、表
示画面に糸巻き表示が出ます。

※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。
部品が外れことがあります。



④ 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を3秒間ほど巻きつけたらミシンを止めます。

穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

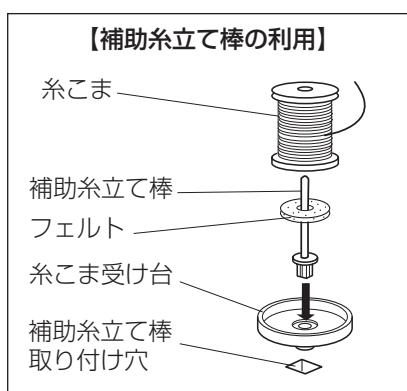
⑤ 再びミシンをスタートさせ、下糸を巻きます。
下糸が巻き終わると、ボビンの回転が止まります。ボビンの回転が止まったらミシンを止めます。

ボビンを左側にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

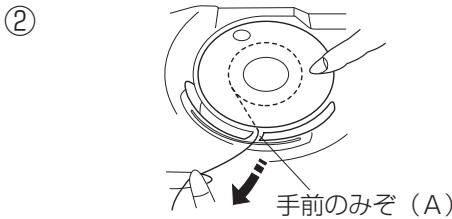
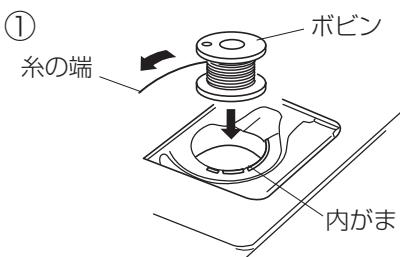
※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを止めてから移動してください。

※ 糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。

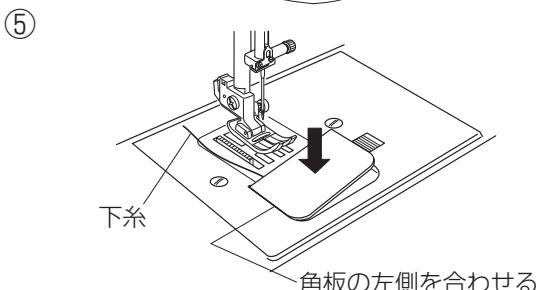
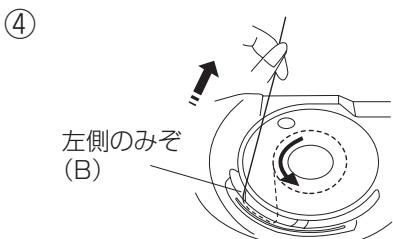
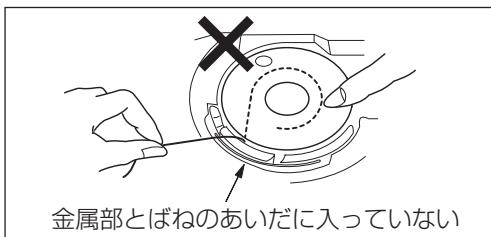
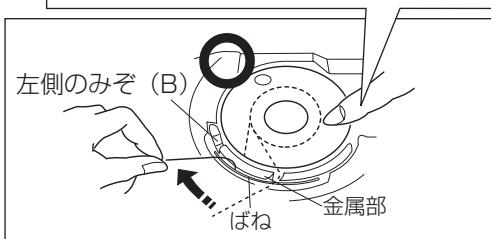
※ 糸巻きには補助糸立て棒も利用できます。
補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。



★ ボビンを内がまにセットします



- ③
- ※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないよう、指で押させてください。

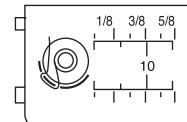


⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

- ① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※ ボビンから引き出される糸の状態の図が、角板に表示されています。



- ② ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。

糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ (A) にかけます。

- ③ 糸の端を引き、金属部とばねのあいだを通しながら左側のみぞ (B) のところに出します。

※ 手順②で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかっていない場合、ばねと金属部のあいだに糸が入りません。その場合は、手順②からかけ直します。

※ 糸が正しくかけられないと、ぬい不良の原因となります。

- ④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

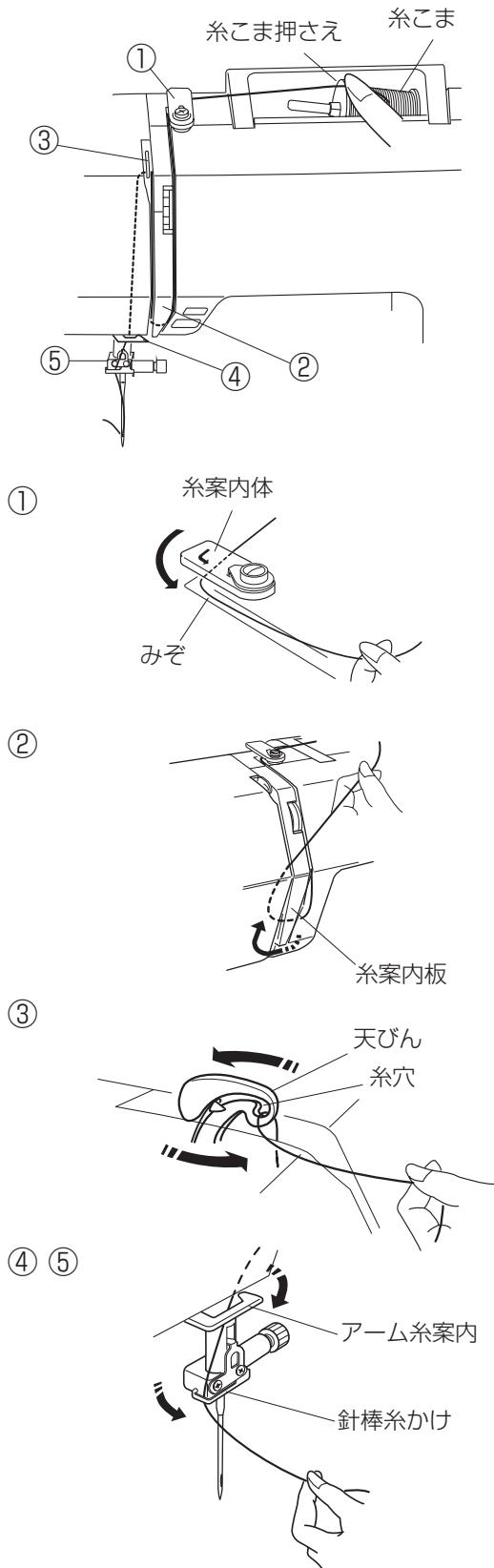
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。

時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

- ⑤ 下糸は 10 cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

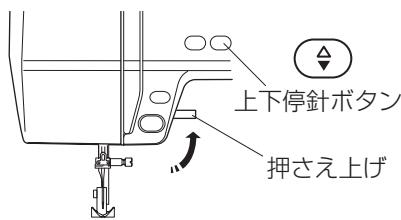
● 上糸の準備をしましょう

★ 上糸のかけ方



※ はじめに、下記の【準備】を必ず行ってください。ぬい不良の原因となります。

【準備】



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを切れます。

⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。

※ 各部に糸を確実にかけるため、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。

※ 糸こまのセット方法は、13 ページ「★糸こまをセットします」をごらんください。

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下にかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内板の下をくぐらせ、左上に引きあげます。

※ 必ず押さえ上げがあがっていることを確認してください。

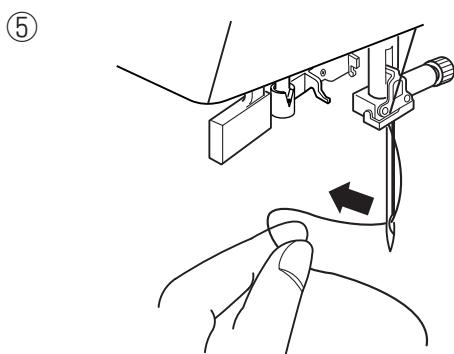
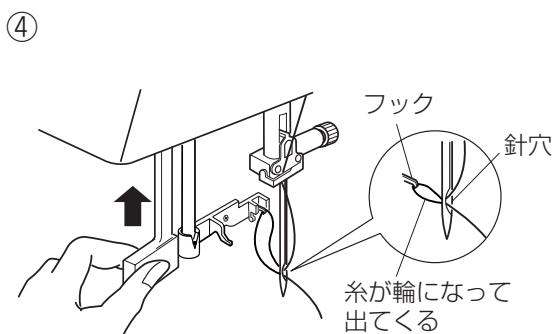
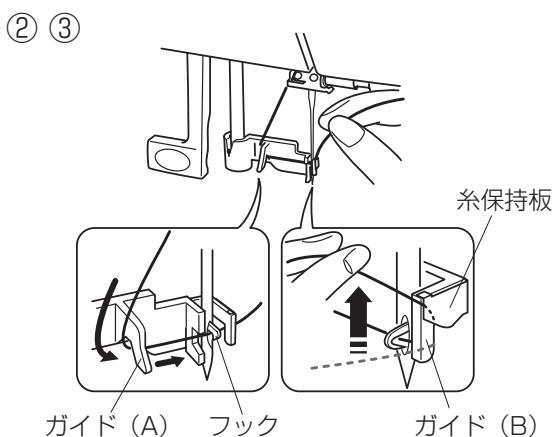
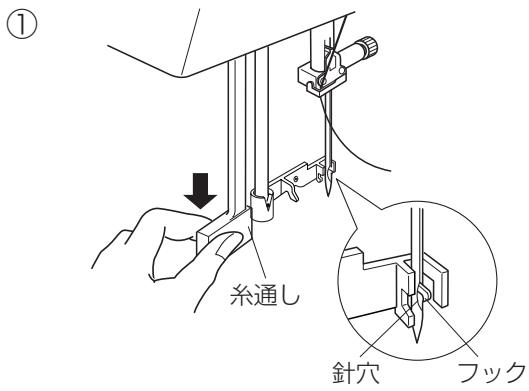
③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。

④ 糸を右からアーム糸案内にかけ、左から針棒糸かけにかけます。

⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。
（「★糸通しの使い方」17 ページ参照）

★ 糸通しの使い方



⚠ 注意

糸通しレバーを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番～16 番、糸は 50 番～90 番が使用できます。

① 上糸かけのとき (16 ページ参照) に上下停針ボタンで針と天びんをあげた状態のまま、糸通しを止まるまで引きさげます。

糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

※ 針穴にフックが入っていることを確認してください。

② 糸を左側からガイド (A) とガイド (B) にかけます。

※ 糸がフックの下を通っていることを確認してください。

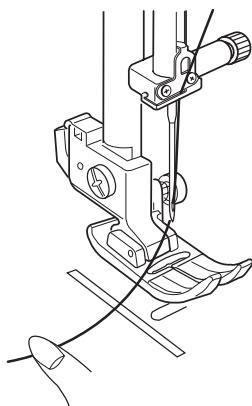
③ 糸をガイド (B) の右から手前にまわして、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

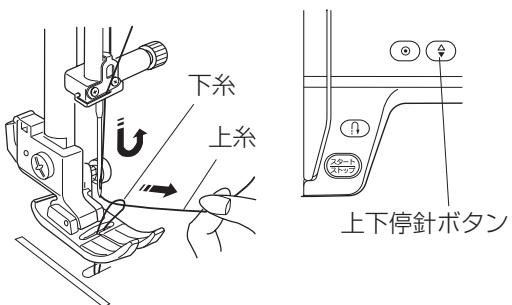
★ 下糸を引きあげます

①



① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

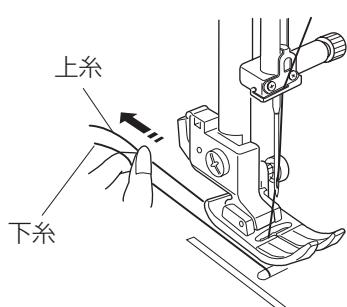
②



② 電源を入れ、上下停針ボタンを 2 回押し、針をあげます。

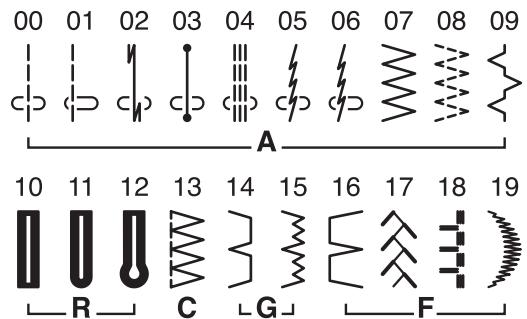
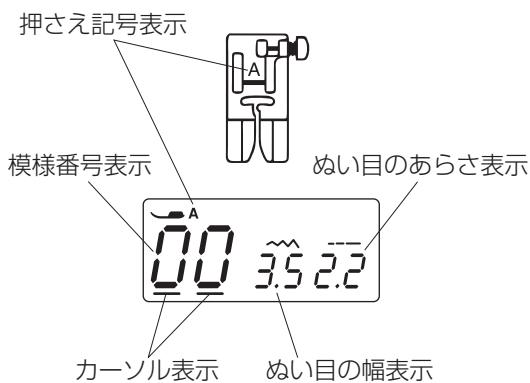
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



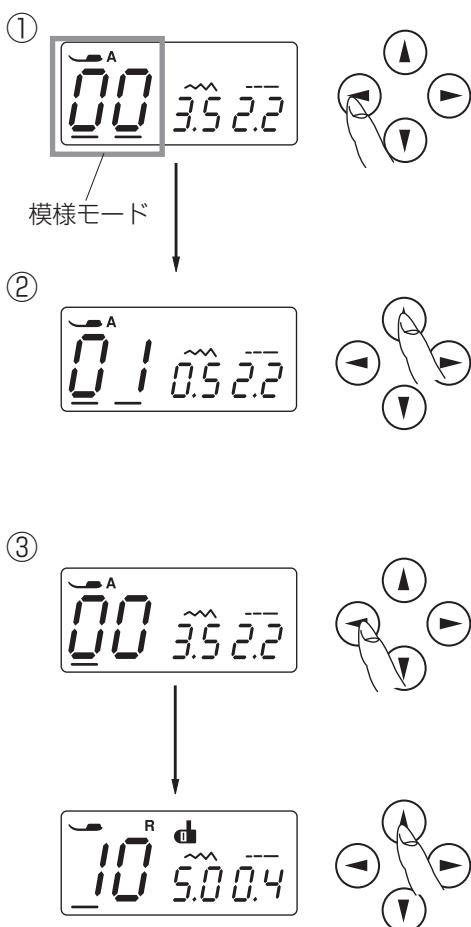
③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm ほどうしろにそろえて引き出します。

● 表示画面の説明



※ 模様の下にあるアルファベットは、模様をぬうときに使用する標準的な押さえの記号を表示しています。

● 模様の選び方



① ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

① ボタンで模様モードを選びます。

② カーソルが 2 つあるときに、 ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

③ ボタンの を押して、カーソルを 1 つにして、 ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらさの変更は、22、24～25ページをごらんください。

◎実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット

模様

00
—
—
—

表示画面

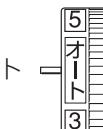


押さえ

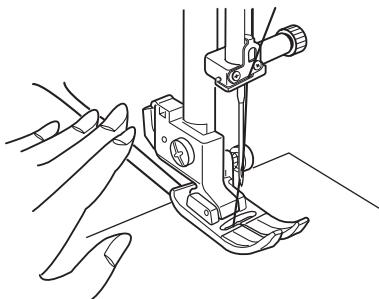


糸調子ダイヤル

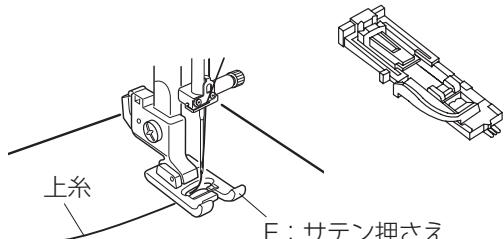
オート



★ぬい始め



R: ボタンホール押さえ



上糸

F: サテン押さえ

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

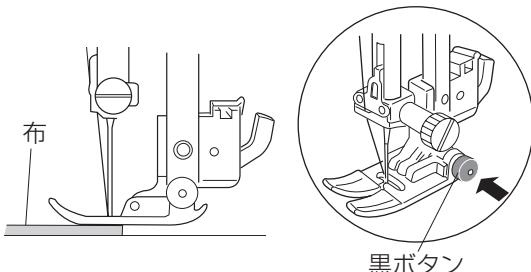
※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様 02 と自動止めぬい模様 03 を使う方法があります。(23 ページをごらんください。)

ぬい始めの糸の引き出し方

通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。

ただし、F: サテン押さえや R: ボタンホール押さえなど押さえの裏側の前後方向(縦方向)がへこんでいて押さえ面がない押さえは、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押えてください。

★厚手の布端のぬい始め



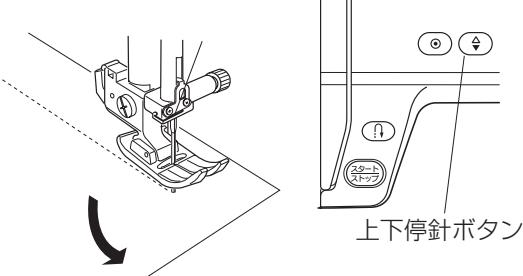
①ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

②ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

★ぬい方向の変更

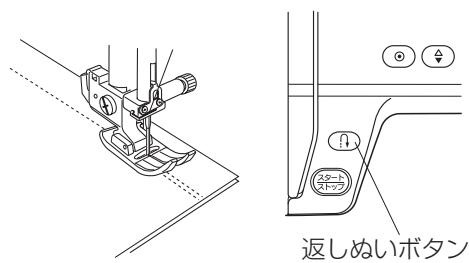


ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。

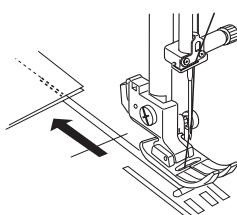
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ ぬい終わり

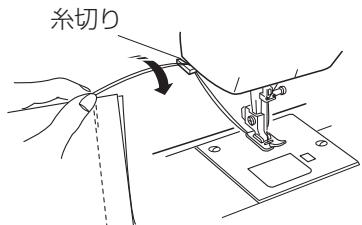
[1]



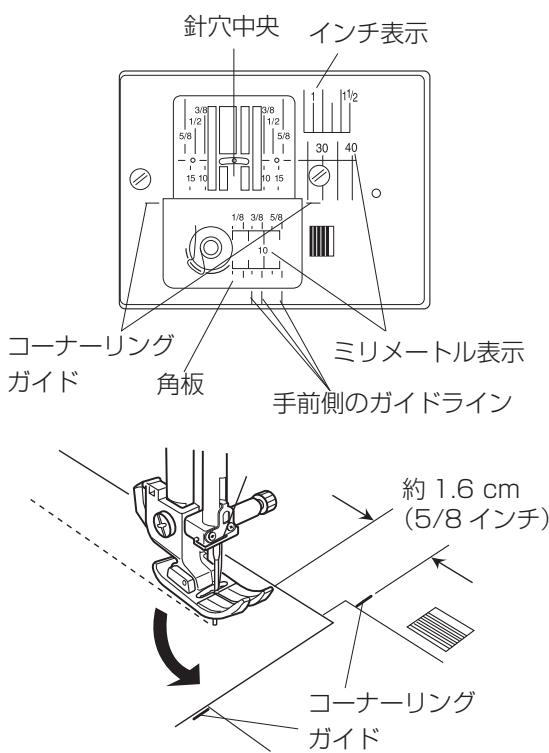
[2]



[3]



● 針板ガイドラインの利用



[1] 返しぬい

返しぬいボタンを押しながら、数針返しぬいをします。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様⁰²と自動止めぬい模様⁰³を使う方法があります。(23ページをごらんください。)

[2] 布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

[3] 糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切れます。

針板、および角板には針穴中央からの長さを表示しています。

※ ガイドラインの数字は針穴中央からガイドラインの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示します。

※ 針板の手前側にもガイドライン左から 0.6 cm (1/4)、0.9 cm (3/8)、1.6 cm (5/8) を表示しています。

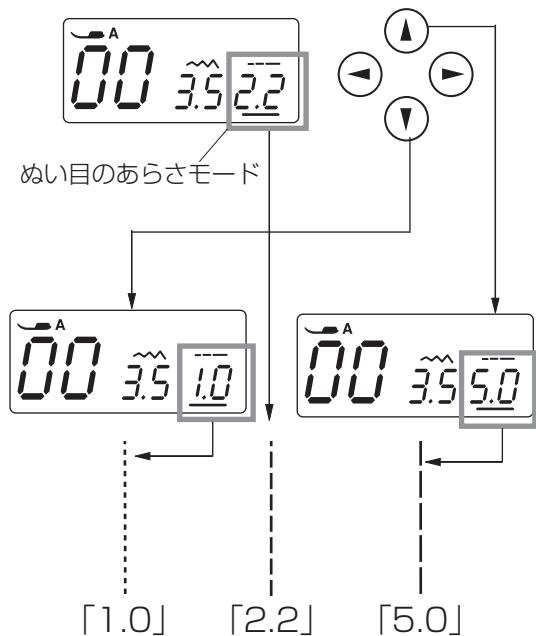
布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

【コーナーリングガイドの利用】

布端から 1.6 cm (5/8 インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに利用します。

- ① 布端がコーナーリングガイドのところにきたら、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して、針を布にさします。
- ② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの 1.6 cm (5/8) に合わせます。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

● ぬい目のあらさをかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 2.2 です。

※ 0.0～5.0のはんいでかえることができます。
(0.0から1.0に、1.0から1.5に、1.5から1.8にかえることができます。1.8から3.0まで0.2ずつかえることができ、また3.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。)

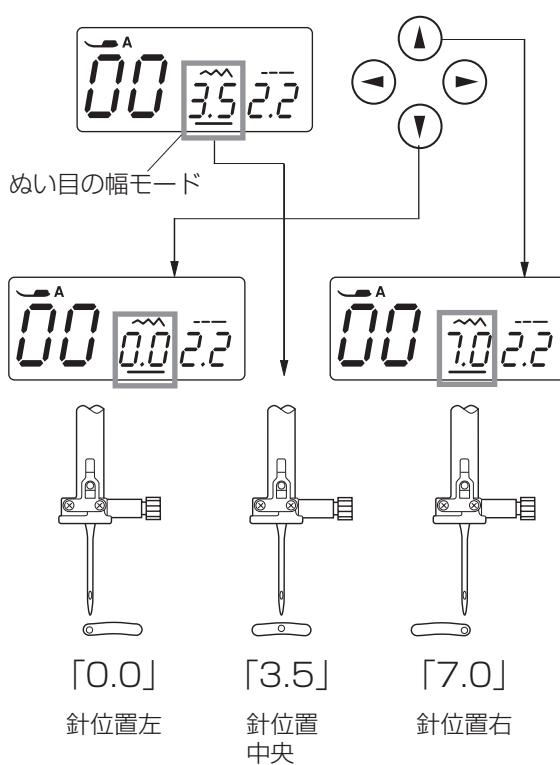
※ ぬい目のあらさは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

「▼ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。

「▲ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

※ 返しぬいのぬい目あらさは、表示数値より小さくなります。

● 針位置をかえるとき



※ 直線状のぬい目、模様 00 01 02 03 04 は、針位置をかえることができます。

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 3.5 です。

※ 模様 01 の初期値（購入時のセット状態）は 0.5 です。

※ 0.0～7.0のはんいで 0.5 ずつかえることができます。

※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

※ 画面の数値は直線状模様の場合は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。

「▼ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

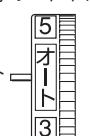
「▲ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

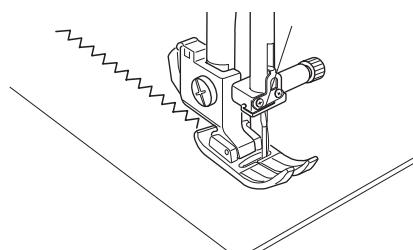
● 直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
地ぬい 模様 00 01 押さえ 糸調子ダイヤル  A : 基本押さえ 	地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。 ※ 模様 01 は、端ぬいに利用します。
自動返しぬい 模様 02 押さえ 糸調子ダイヤル  A : 基本押さえ 	裁縫始めと裁縫終わりにしっかりとほつれ止め（返しぬい）を自動的に使うときには、この機能を使います。
【ぬい始め】 ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいを行います。 【ぬい終わり】 (スタート / ストップボタン使用時) ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。 【ぬい終わり】 (フットコントローラー使用時) ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。 運転したままボタンを押した場合も、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。	
自動止めぬい 模様 03 押さえ 糸調子ダイヤル  A : 基本押さえ 	裁縫始めと裁縫終わりに目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に使うときには、この機能を使います。
【ぬい始め】 ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針止めぬいを行います。 【ぬい終わり】 (スタート / ストップボタン使用時) ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。 【ぬい終わり】 (フットコントローラー使用時) ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。 運転したままボタンを押した場合も、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。 ※ 裁縫終わりに、返しぬいボタンのかわりに止めぬいボタンを押しても、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。	

ミシンのセット	用途
三重ぬい 模様 04  A: 基本押さえ	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに利用します。
伸縮ぬい 模様 05 06  A: 基本押さえ	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。 ※ 模様  は、うす地のニット素材に利用します。

● ジグザグぬい

ミシンのセット			
模様 07   A: 基本押さえ	表示画面  A: 基本押さえ	押さえ	糸調子ダイヤル 



ジグザグぬい（模様 07）で「A 押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがないよう、ぬい目の幅やぬい目のあらさを調節して、ご使用ください。

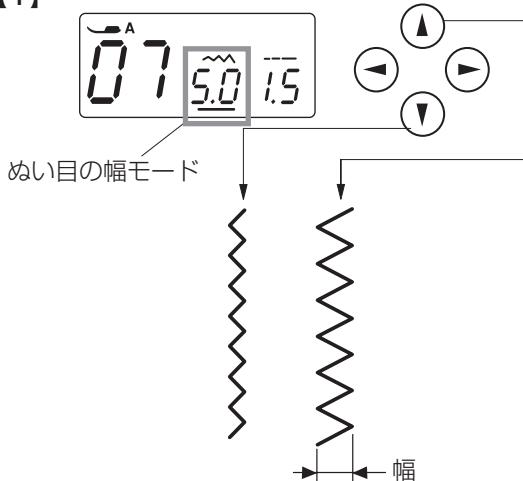
（薄地の場合で、ぬい目の幅 3.0、ぬい目のあらさ 2.0 が目安です。）

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。

※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ ぬい目の幅・あらさをかえるとき

【1】



【1】ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 5.0 です。

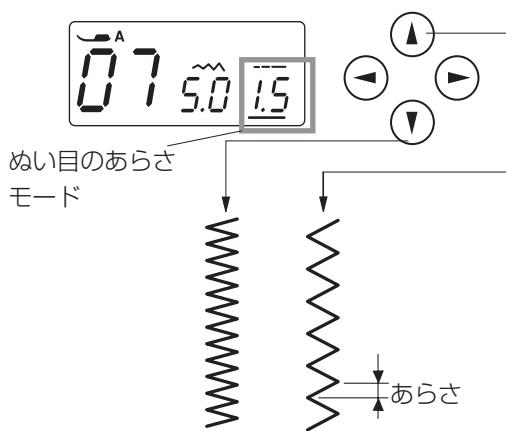
※ 0.0 ~ 7.0 のはんいで 0.5 ずつかえることができます。

※ 画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広くなります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

[2]



[2] ぬい目のあらさをかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 1.5 です。

※ 0.2 ~ 5.0 のはんいでかえることができます。（0.2 ~ 1.0 まで 0.1 ずつ、1.0 から 5.0 まで 0.5 ずつかえることができます。）

※ 画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

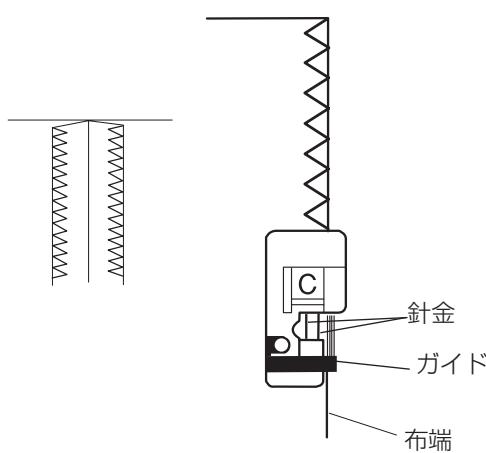
「▲ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、あらさがあらくなります。

「▼ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、あらさが細かくなります。

● たち目かぎり

【ジグザグぬいのたち目かぎり】

ミシンのセット				
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル	
07 ~~~~~ W	07 5.0 1.5	A : 基本押さえ または C : たち目かぎり押さえ	オート	



布端をたち目かぎり押さえのガイドに当ててね
います。

布端のほつれ止めとして広く利用します。

※ たち目かぎり押さえを使用するときは、ぬい
目の幅は、5.0 ~ 7.0 でねいます。

⚠ 注意

たち目かぎり押さえを使用するときは、ぬい
目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。
針が針金にあたり、けがの原因となります。

「A 押さえ」を使用する場合は試しねいをして、
ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目の
あらさを調節してください。

【かがりぬい】

ミシンのセット

模様



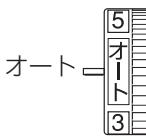
表示画面



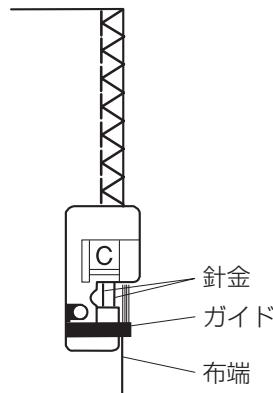
押さえ



糸調子ダイヤル



C : たち目かがり押さえ



地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに利用します。

布端をガイドにあててぬいます。

※ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

⚠ 注意

たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は4.5以下では使用しないでください。
針が針金にあたり、けがの原因となります。

● トリコットぬい

ミシンのセット

模様



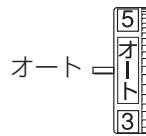
表示画面



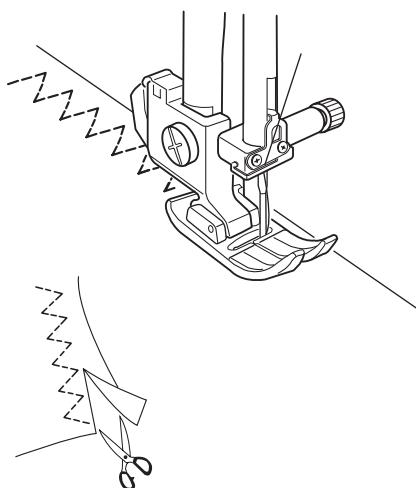
押さえ



糸調子ダイヤル



A : 基本押さえ



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、
布端の反り防止などに利用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

● ボタンホール

★ ボタンホールの種類

10

◎スクエア（両止め）

普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。

11

◎片ラウンド

普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。

12

◎キーホール（鳩目穴）

普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。

大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

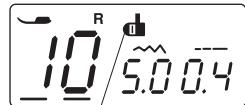
★ ボタンホール 10（スクエア）のぬい

ミシンのセット

模様

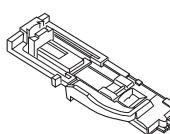
表示画面

10



ボタンホール切りかえレバー表示 R: ボタンホール押さえ

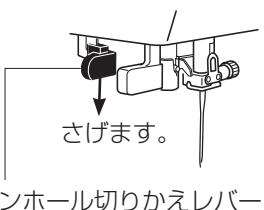
押さえ



糸調子ダイヤル



オート



さげます。

※ ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示が点灯します。

ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてねいます。

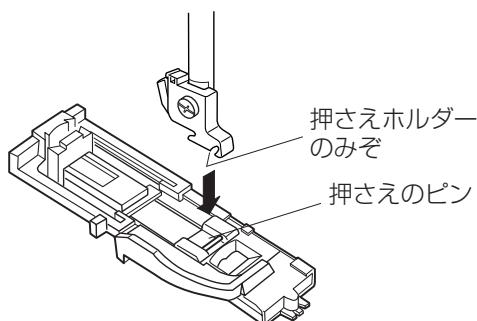
※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。(28 ページをごらんください。)

※ ボタンの直径が 1.0 cm ~ 2.5 cm までのボタンホールができます。

※ ぬうものと同じ布で試しづらいをして、ミシンのセットを確かめましょう。

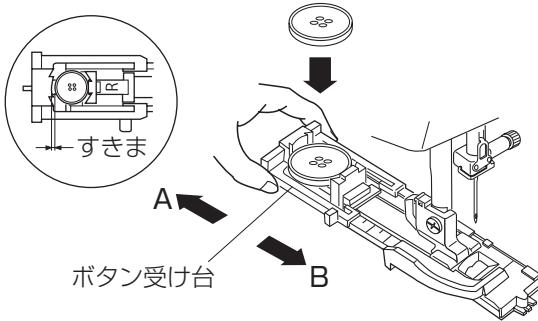
※ 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①



① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

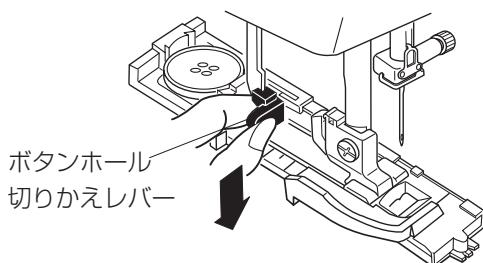
②



② ボタン受け台を A 方向に引き、ボタンをのせて B 方向に戻し、はさみます。

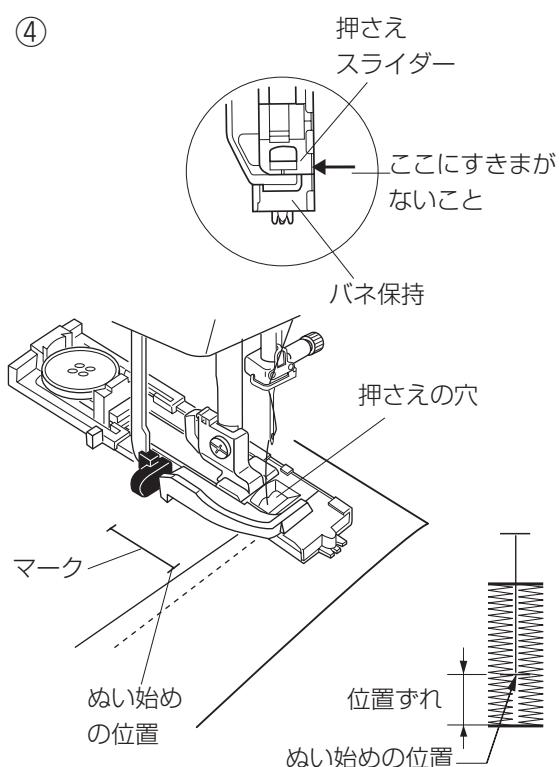
※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

③



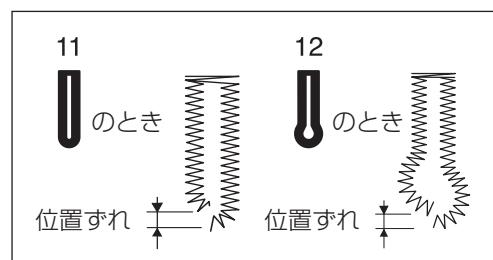
③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④

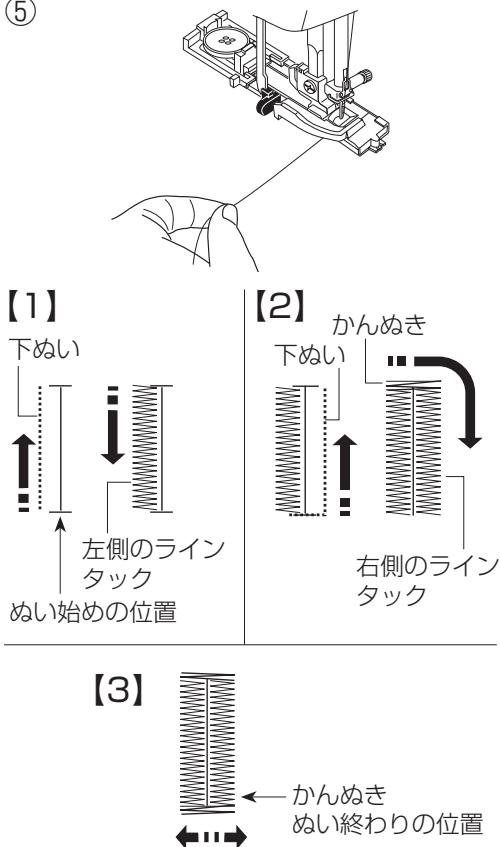


④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。
ぬい始めの位置ずれになります。



⑤



⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。(ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。)

ボタンホールをぬい終わったところでほつれ止めの止めぬいを行って、自動的にミシンが停止します。

[ぬっていく順序]

[1] 第1ステップ

下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

[2] 第2ステップ

下ぬいのあと、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

[3] 第3ステップ

かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

★ ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。
一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。
自動的に重ねぬいをします。

ぬい途中に模様番号が **BL** と表示(2~3秒)
され、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき

ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを 0.5 cm ぬったときに表示します。
ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。

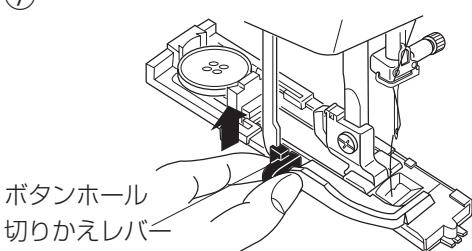
⑥



⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。

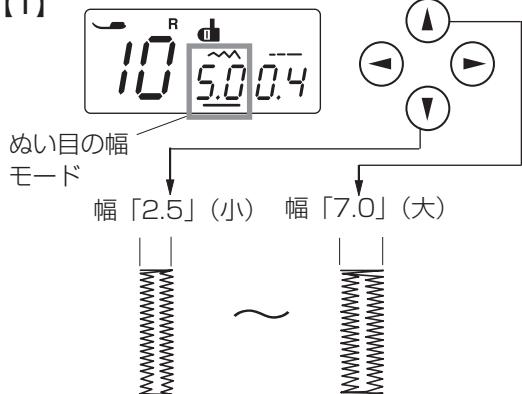
⑦



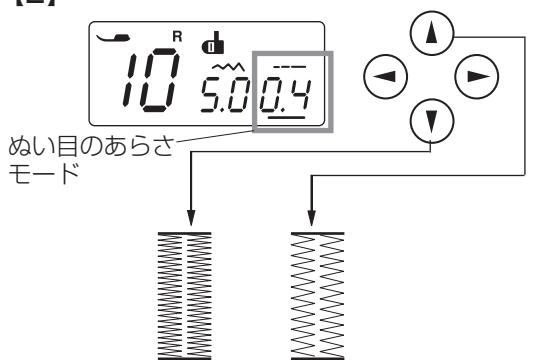
⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

★ ぬい目の幅・あらさをかえるとき

[1]

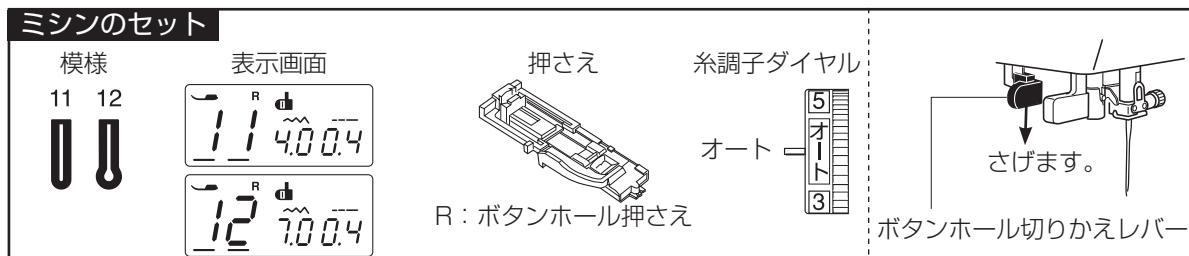


[2]



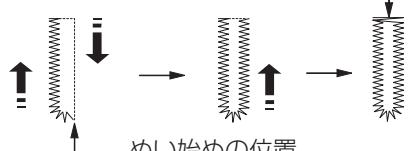
★ ボタンホール 11、12 のぬい

ミシンのセット



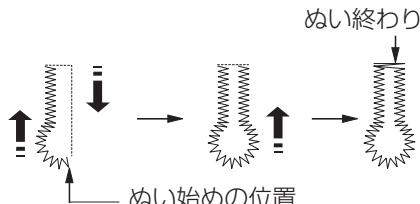
11

(ぬつっていく順序)



12

ぬい終わり



※ ぬい方はボタンホール 10 (スクエア) と同じです。

(27 ~ 29 ページをごらんください。)

※ 模様 11 のぬい目の幅は 2.5 ~ 5.5 のはんいで 0.5 ずつかえることができます。

※ 模様 12 のぬい目の幅は 5.5 ~ 7.0 のはんいで 0.5 ずつかえることができます。

ぬい目のあらさは、両方とも 0.3 ~ 0.8 のはんいで 0.1 ずつかえることができます。

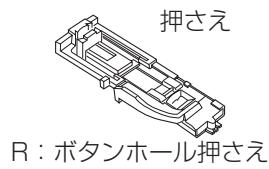
● 芯入りボタンホール

ミシンのセット

模様
10



表示画面



R: ボタンホール押さえ

押さえ

糸調子ダイヤル

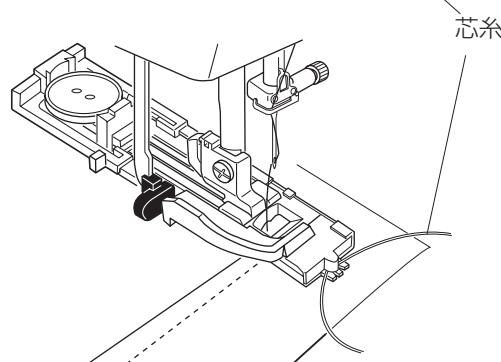
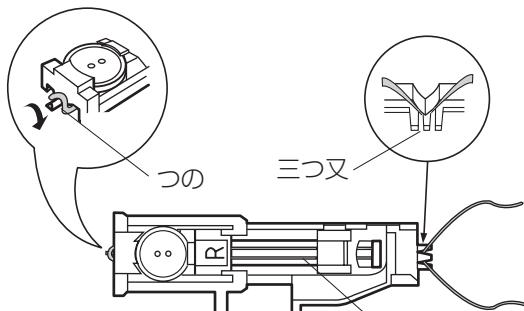
オート



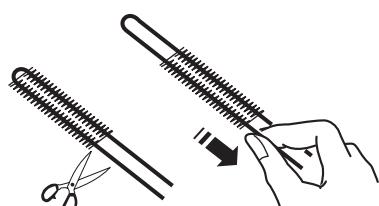
ボタンホール切りかえレバー

さげます。

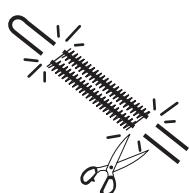
① ②



③



芯糸が引けない場合



① 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつにかけ、押さえの下から手前に平行になるよう引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにねします。

※ 27～29 ページをごらんください。

③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切れます。

※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

※ 穴のあけ方は、29 ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けないときは、前後の芯糸を切れます。

● ボタン付け

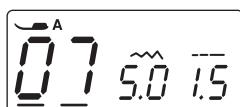
ミシンのセット

模様

07



表示画面



押さえ



F: サテン押さえ

糸調子ダイヤル

オート

ト

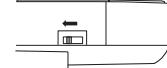
3

5

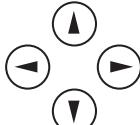
オ

ト

ドロップつまみ

送り歯をさげます。
(9 ページ参照)

《ぬい目の幅モード》

(ボタン穴の間かくと
同じ値にする。)

【準備】

1. 送り歯ドロップつまみで送り歯をさげます。
2. スピードコントロールつまみの位置をゆっくり側にして、ぬい速度をおそくします。
3. ボタン穴の左右の間かくをはかります。
 (← → ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。
 ↑ ↓ ボタンで穴の間かくと同じ値に設定します。

【ぬい方】

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるために、下記手順①からの操作を行うときは、必ず模様 を選んだ直後から行ってください。模様 を一度でもぬったあとに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

- ① ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。
- ② ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえ上げをさげます。
- ③ はずみ車を手で手前に数回まわすと、左側の穴を数回ぬったあと針が右側に移動するので、針がボタンにあたらないでボタンの右の穴に入ることを確認します。

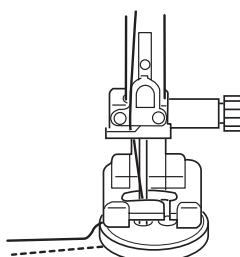
※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。

- ④ ミシンをスタートさせ、10針くらいぬいたらミシンを停止します。
- ⑤ 針をあげ、押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cm~20cm残して切れます。

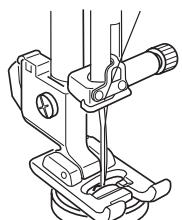
⑥ ぬい始めの上糸と下糸は止めぬいが入っているので、ボタンのきわで、はさみで切れます。ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切れます。

※ ぬい終わったら、送り歯ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどしてください。
(9 ページ参照)

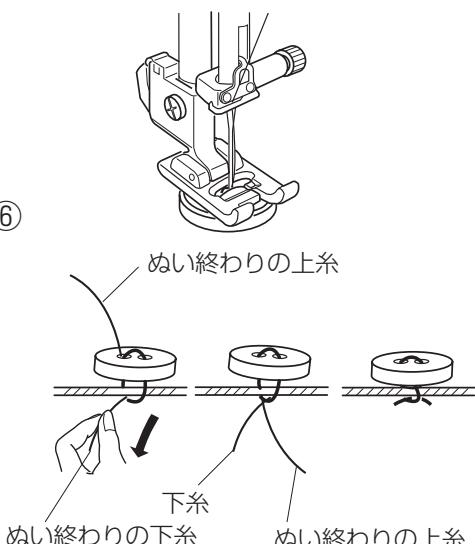
① ②



③ ④ ⑤



⑥



● ファスナー付け

ミシンのセット

模様
00



表示画面

押さえ



および



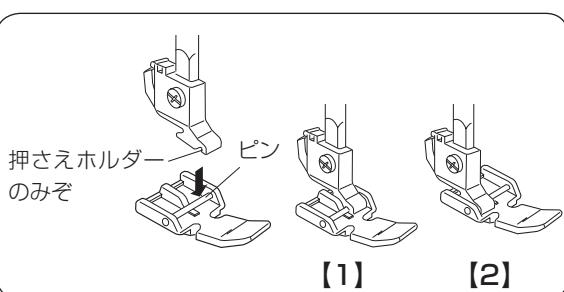
A: 基本押さえ

E: ファスナー押さえ

糸調子ダイヤル



オート



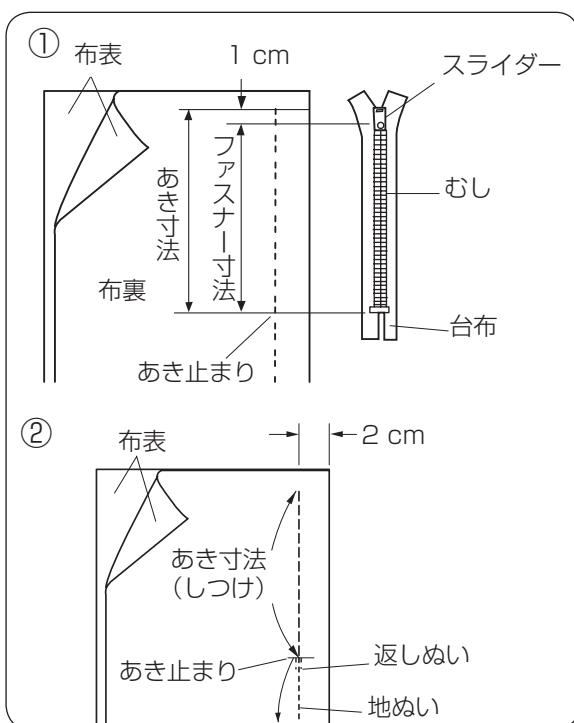
【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、左側にセットします。

【1】左側をぬうとき

【2】右側をぬうとき



【準備】

① ファスナーのあき寸法を確かめます。

あき寸法はファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。

② しつけと地ぬいをします。

布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。

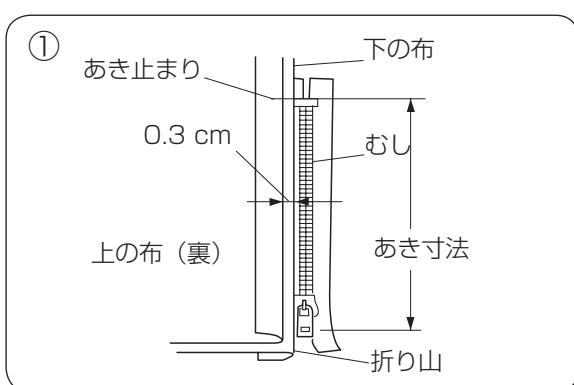
地ぬいの部分は、A: 基本押さえを使ってぬいます。

あき部分は、ぬい目のあらさ 5.0 でしつけいをします。

※ しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。

しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび糸調子ダイヤルをもどします。

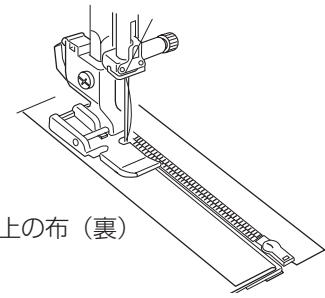
(糸調子ダイヤルの位置は「オート」)



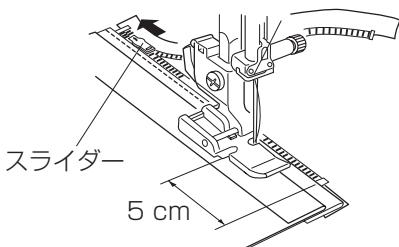
【ぬい】

① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3 cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

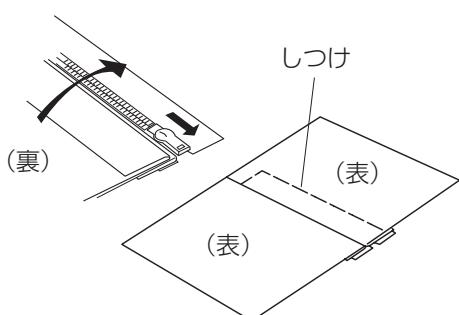
②



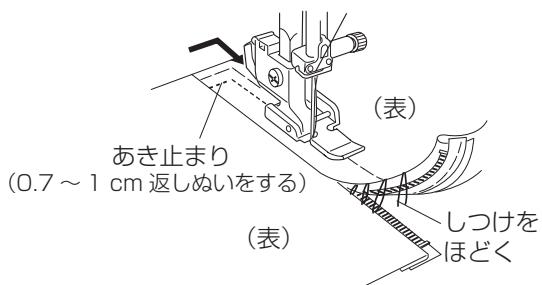
③



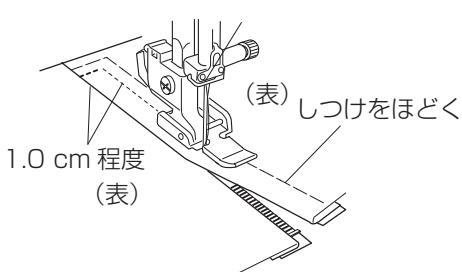
④



⑤ ⑥



⑦



② 押さえホルダーを押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナー や押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因となります。

③ ファスナーの端から 5 cm 手前でミシンを止め、針を布にさします。

押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。

かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは A 基本押さえを使用します。

しつけはほどきやすいように、ぬい目のあらさを 5.0、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。

⑤ E : ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーに取り付けます。

上の布のあき止まりを 0.7 cm ~ 1 cm < らい返しぬいしてから、むしのきわに押さえの端をあて、ファスナーの右側をぬいます。

⑥ ファスナーの上側を 5 cm くらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順② (33 ページ参照) でぬったしつけ糸をほどきます。

⚠ 注意

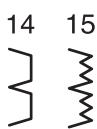
ファスナーをぬうときは、針がファスナー や押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因となります。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

● まつりぬい

ミシンのセット

模様



表示画面



押さえ



糸調子ダイヤル



G : まつりぬい押さえ

※ 模様 15 は、伸縮性のある布をぬうときに利用します。

【布の折り方】

《厚い布の場合》

0.4 ~ 0.7 cm



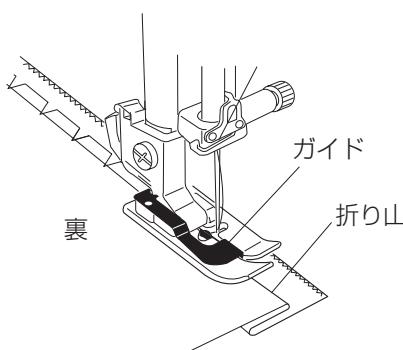
《うすい布、普通の布の場合》

0.4 ~ 0.7 cm



【ぬい方】

①



②



布は折るときに裏を表にして
下に折り込み、布端を 0.4 ~
0.7 cm ほどはみ出させます。

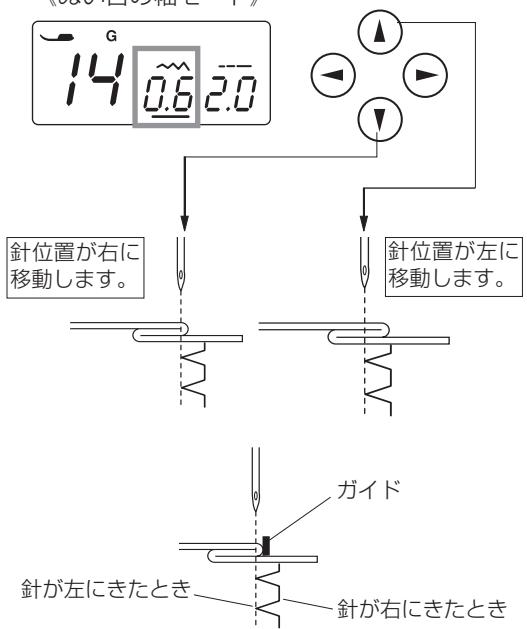
① ガイドに折り山を合わせ、針が
折り山から外れないように針位
置を調節してぬいいます。

② ぬい終わったら布を表に返
します。

※ 左側におりる針が必要以上
に折り山にかかりすぎると
表に出るぬい目が大きくな
り、きれいに仕上がりませ
んので注意してください。

【針位置の調節】

《ぬい目の幅モード》



◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は 0.6 です。

※ 表示 0.6 はガイドから針位置が左にきたと
きの幅を示します。

※ 模様 14、15 は、ぬい目の幅は変化せず模
様（針位置）が左右に移動します。

針が折り山にかかりない場合「▲ボタン」を
押して針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「▼ボタン」
を押して針位置を右に移動させます。

◎応用ぬい

● ピンタック

ミシンのセット

模様

01

表示画面



押さえ



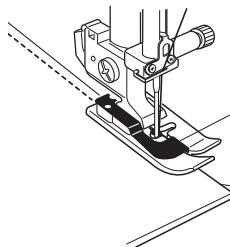
糸調子ダイヤル



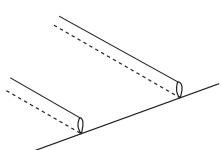
オート

G : まつりぬい押さえ

①



②



① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

② ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

● パッチワーク

ミシンのセット

模様

09 17

表示画面



押さえ



糸調子ダイヤル



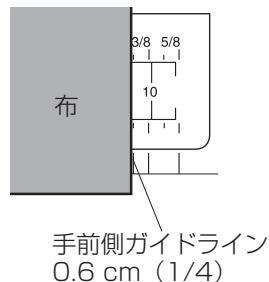
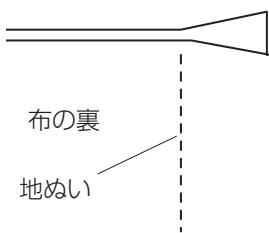
オート



A

: 基本押さえ

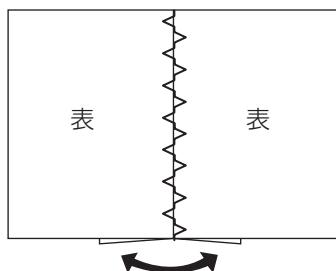
①



① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

※ 地ぬいは、布端を針板の手前側ガイドライン 0.6 cm (1/4) に合わせてぬいます。

②



② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

● シェルタック

ミシンのセット

模様

16

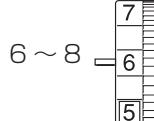


表示画面

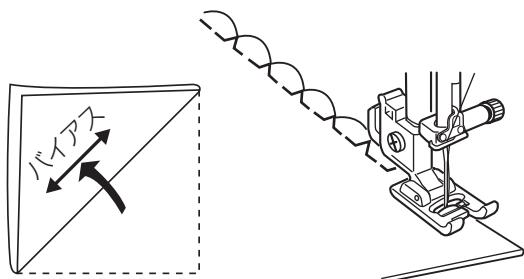
押さえ



糸調子ダイヤル



F : サテン押さえ



布をバイアスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてねいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

※ 糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

● ファゴティング

ミシンのセット

模様

17



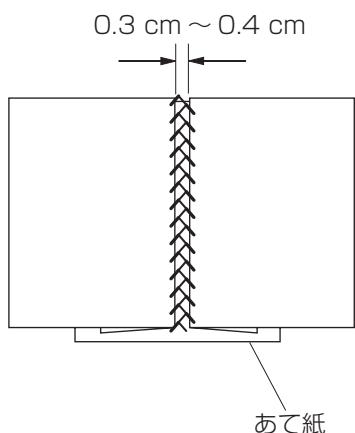
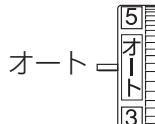
表示画面

押さえ



F : サテン押さえ

糸調子ダイヤル



布端と布端の間かくを0.3 cm～0.4 cmあけて、下にあて紙をします。
布の表から間かくの中央を中心にしてねいます。
最後にあて紙をとります。

● アップリケ

ミシンのセット

模様

18



表示画面



押さえ

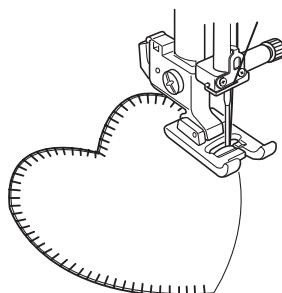


糸調子ダイヤル

オート



F: サテン押さえ



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。

針をアップリケ布の外側に落とし、アップリケ布のふちをぬっていきます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を下位置にします。

押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

● スカラップ

ミシンのセット

模様

19



表示画面



押さえ



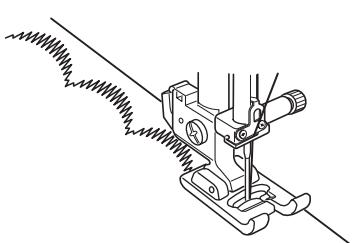
糸調子ダイヤル

オート



F: サテン押さえ

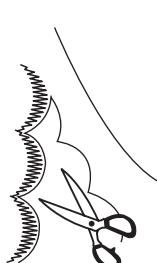
①



① 布の表から、布端を 1 cm くらい残してねします。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

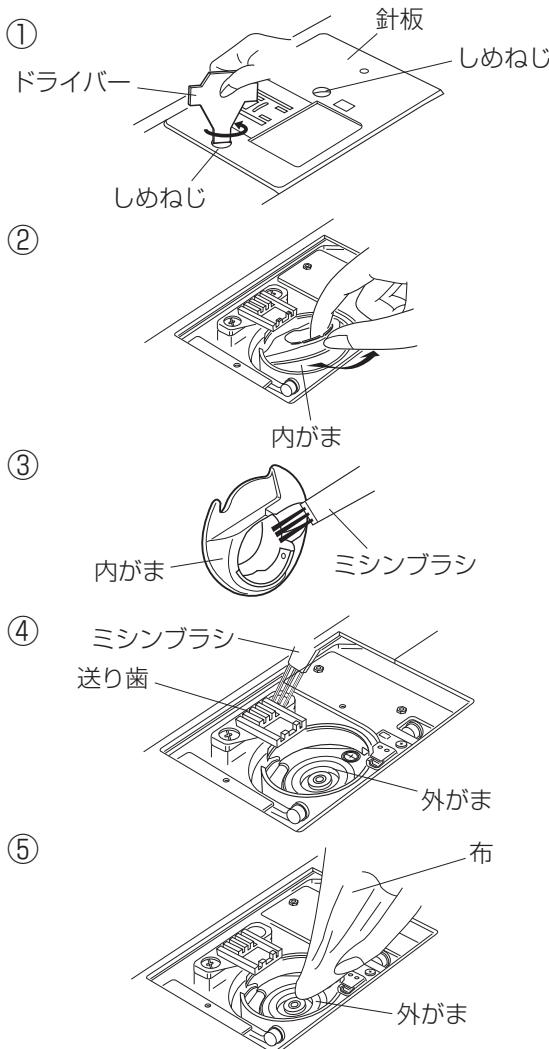
②



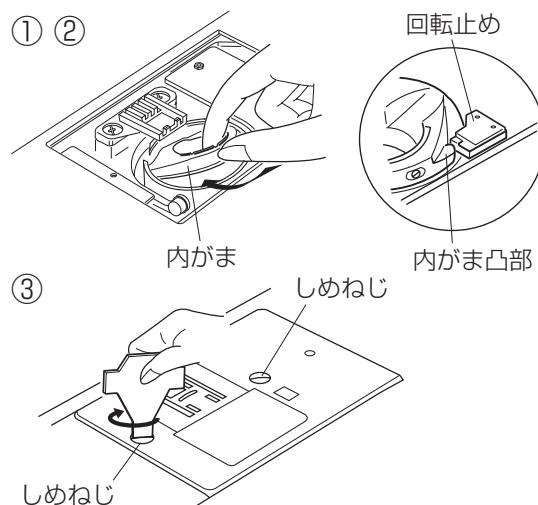
② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎ミシンのお手入れ

● かまと送り歯の掃除



● 内がまと針板の組み付け



注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

※ 針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り出します。

- しめねじを2個外し、針板を外します。
 - 内がまの手前を上に引きながら内がまを外します。
 - 内がまを、付属のミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。
 - 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
 - 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

お願い :

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

① 内がまを差し込みます。

② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめるようにして、内がまを取り付けます。

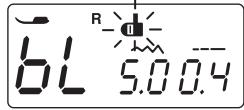
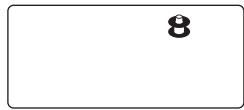
※ 内がまを取り付けたあと、はすみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

③ ボビンを入れ、針板を取り付け、しめねじ2個をしっかりとしめます。

※ お手入れが終わったら、ボビン、角板、押さえホルダーと針などを忘れずに取り付けてください。

◎こんな表示が出た場合

● 表示画面の対処方法

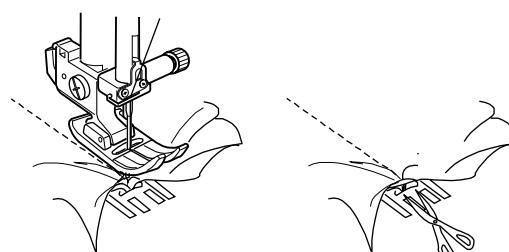
表示	対処方法
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート／ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が点滅します。 スタート／ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。
	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを 0.5 cm ぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。 ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。
	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 糸巻き軸をもとの位置に戻すまで表示されます。
	1. 安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後 15 秒間のあいだに再スタートしようとすると表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 2. 糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。 電源を切り不要な糸を取り除いてください。

● ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシンが正しく作動しなかった場合の警告音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

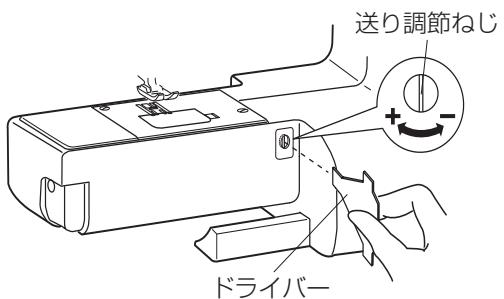
調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。糸調子皿から上糸が外れている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	16 ページ参照 11 ページ参照 12 ページ参照 12 ページ参照 20 ページ参照 布を向こう側に出す 12 ページ参照
下糸が切れる	1. 下糸の通し方がまちがっている。 2. 内がまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。	15 ページ参照 39 ページ参照 ボビンを交換する。 14 ページ参照
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめ付けがゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様に合った押さえを使用していない。	12 ページ参照 12 ページ参照 布を向こう側に出す 12 ページ参照 指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している	12 ページ参照 12 ページ参照 12 ページ参照 16 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついたりしている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. ぬい目のあらさが布に対してあらすぎる。 5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。	11 ページ参照 15、16 ページ参照 12 ページ参照 ぬい目を細かくする 芯地を貼る
布送りがうまくいかない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	39 ページ参照 ぬい目をあらくする 9 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	11 ページ参照 12 ページ参照
ぬい目に下糸が出る	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。	16 ページ参照 20 ページ参照
うすい布、伸縮性の布が食い込む	1. 布に対して針と糸があってない。 2. 左針位置でぬっていない。	12 ページ参照 左針位置でぬう

調子が悪い場合	原因	直し方
布裏で糸がからまる	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 〔手順②の図〕</p> 	<p>16 ページ参照 【からまっている糸の取り方】 ① 電源スイッチを切る。 ② 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る。 ③ 針板を外す。 (39 ページ参照) ④ ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る。 (13, 39 ページ参照) ⑤ ボビン、内がま、針板を取り付ける。 (15, 39 ページ参照) ⑥ 上糸をかけ直す。 (16 ページ参照)</p>
ボタンホールがうまくねえない	<p>1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3. 布に対してぬい目のあらさが合っていない。</p>	<p>28 ページ参照 伸びない芯地を貼る 30 ページ参照</p>
上糸が抜ける	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めて布に針をさしていない。</p>	<p>16 ページ参照 20 ページ参照</p>
ぬい始めの糸がらみ	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めて上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。</p>	<p>16 ページ参照 20 ページ参照</p>
ぬい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して針をあげる
かまに糸がからまる	<p>1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。</p>	<p>16 ページ参照 かまの交換 39 ページ参照</p>
音がして糸がからまる	<p>1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。</p>	<p>16 ページ参照 16 ページ参照</p>
フットコントローラーを踏み込んでも動かない	<p>1. 画面表示にフットコントローラーの表示がでないうちにフットコントローラーを踏んだ。</p>  <p>2. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。</p>	<p>フットコントローラーの表示が出たあとにフットコントローラーを踏む 5 ページ参照</p>
糸通しができない	<p>1. 針と天びんが上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</p>	<p>17 ページ参照 12 ページ参照</p>
音が高い	<p>1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。</p>	<p>39 ページ参照 39 ページ参照 異常ではありません</p>

調子が悪い場合	原因	直し方
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。(糸巻状態になっている) 4. フットコントローラーを接続したままでスタート / ストップボタンを押している。 5. 天びん内部に糸がからんでいる。	5 ページ参照 39 ページ参照 14 ページ参照 フットコントローラーを外す 44 ページ【面板の取り外し、取り付け方】を参照しからんでいる糸を取り除く
模様がくずれる	1. 模様が正しく調整されていない。	44 ページ【模様の形の整え方】を参照
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向が違う、または下糸が内がまのばねに入っていない。) 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。 2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。	14 ページ参照 調整ねじをまわす 〔上に片寄っている〕 ↓ 調整ねじを右にまわす 〔下に片寄っている〕 ↓ 調整ねじを左にまわす 調整ねじ (糸巻き糸案内)

- ※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 長時間使うと画面付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

【模様の形の整え方】

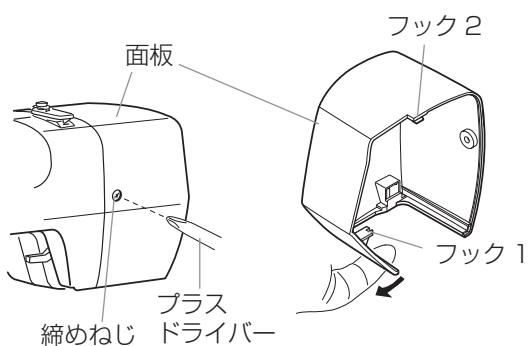


布の種類などによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しういをしながら、送り調節ねじで調節してください。補助テーブルは外します。

例【模様 のとき】¹⁷

- 模様がつまっているときは送り調節ねじを「+」の方向にまわします。
- 模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」の方向にまわします。

【面板の取り外し、取り付け方】



【外し方】

- ① 電源スイッチを切ります。
 - ② プラスドライバーで締めねじを外します。
(プラスドライバーは付属には含まれていません)
- ※ 面板を外すとき、面板の下側を手前に引き、左にスライドさせ、フック 1 を外したあと、フック 2 を外します。

【付け方】

- ① フック 2 を取り付けたあと、面板の下側を手前に引き、右にスライドさせ、フック 1 を取り付け、締めねじで固定します。
- ※ ぬいのときは必ず面板を取り付けてください。

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。



ジャノメ HP
FAQ ページ



ジャノメ公式
Instagram



ジャノメ公式
YouTube チャンネル

仕様	
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	35 W
外形寸法	幅 406 mm × 奥行 174 mm × 高さ 298 mm
質量	5.4 kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますので申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間に内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ

住所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

電話 お客様相談室 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。

808-800-752 ⑦